

製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
— リスクマネジメントを考慮した水平的連携手法 —

株式会社ジョンクエルコンサルティング
代表取締役 落合 以臣

今までの企業の多くは、垂直統合モデルを採用してきたために、研究開発から量産までのプロセスを一気通貫として捉えてきました。そのために、研究開発から量産までのプロセスに関与する部門は専門別に分離され、ひとつの時間軸の中で、得意性を生かすような働きをしてきたことは周知の通りです。この結果、上流から下流へと流れる仕組みが形成され、スムーズに流れている間は問題が発生しないでしょうが、BRICS諸国の台頭、新興国の追い上げによって、ひとたび流れがせき止められるような現象が発生すれば、たちまちその仕組みは止まってしまうことになり、まさに現代がこの表現に等しいはずで

この問題の根本的な原因のひとつに、垂直統合の生産モデル自体が時代の要請に合わなくなってきたのにもかかわらず、すでに導入した膨大な生産システムを中心とした組織体制を続けなければならないという宿命を負わされているからではないでしょうか。では、今までのソフト・ハードをリセットして、新たな展開に踏み切ることができるかといえば、それこそナンセンスな問いかけになるはずで

今後の市場の要求は“素早く先を見た顧客ニーズを満たし、かつローコスト、品質確保したうえで開発・生産を行う”ことが重要であることは誰にもわかるはずで

この要求を具体化するためには、それぞれの連携できる人、部門、企業が得意分野を持ち寄って、それぞれの強みを自由に組み合わせ商品を開発していく、新たな連携と融合、つまり水平提携型モデルが必要となります。また、より複合的な組み合わせとなるために、今まで以上にリスクをどのようにコントロールしていくのが大きな課題になるはずで

このリスクをコントロールする方法として、開発の上流の段階、すなわちフロント・エンド・ローディングを実施する際に、調達・購買・資材部門のチェック機能をリスク連関として捉え、開発の急所を炙り出すことによって、開発から量産体制を含めて警笛を鳴らすことができると考えま

今後、時代に即応したフロント・エンド・ローディングを実践していく中で、大きな開発プロセスの変更に至らない方法として、水平的連携手法とリスクマネジメントをグローバルな視点で取り入れることが不可欠になってくると思われま

この *JQ International Review* を愛読される方の背中を押すことができれば幸いです。